

## USB ダンパーの導入(6) —fidataHFAS1-S10 によるファイル音源再生—

### 1. 始めに

前報(5)に引き続き、ヴォリュームアキュライザーの感想文により入手した USB ダンパーの効果を確認していきます。

### 2. USB ダンパーの試聴計画

前報(2)で述べたような事情から、今回は fidataHFAS1-S10 収納のファイル音源再生とします。

再生経路は次のとおりです。

fidataHFAS1-S10→USB Hub→Brooklyn DAC+

まずは、USB ダンパーなしで聴いておき、さらに USB Hub の USB 入出力端子に適用します。なお、fidataHFAS1-S10 側の USB Hub 端子は USB3.0 端子であり、USB ダンパーを挟む余地はありませんので、前報(5)と同様に Brooklyn DAC+側の出力端子のみの効果となります。

USB Hub は IO データ機器の PC 用のものでオーディオグレードではありません。USB Hub を使う理由は fidataHFAS1-S10 に USB ポートが一か所しかないからです。

11.2MHzDSD 音源の中から下記を選択します。

チャイコフスキー他 くるみ割り人形(抜粋) 他

エルネスト・アンセルメ指揮コヴェントガーデン王立歌劇場管弦楽団

ステレオサウンド社 SSHRB-004

MQA 音源の中から下記を選択します。

ドヴォルザーク 交響曲第 8 番・第 9 番

ラファエル・クーベリック指揮ベルリンフィル

Universal Music UCCG-40074

その他手持ちの BS 放送や BPODCH から DA-3000 で録音した自前の 5.6MHzDSD 音源をいくつか聴いていきます。

### 3. USB ダンパーの試聴結果

USB ダンパーなしの状態でも TruPhase と Langevin 6V6pp アンプに VRA-7 を貼っている関係から、これまでの fidataHFAS1-S10 による DSD 音源や MQA 音源の再生と違って滑らかさが違ってきます。

アンセルメ指揮コヴェントガーデンのガラコンサートの 11.2MHzDSD 音源では、11.2MHzDSD らしい滑らかな音がさらに緻密で滑らかになります。

ドヴォルザークの交響曲第 8 番・第 9 番の MQA 音源では、MQA らしい細かい音の表現が向上します。

自前の 5.6MHzDSD 録音音源では、BS 放送からの録音も BPODCH からの録音もライブ演奏らしいリアルさが向上します。BPODCH からの録音では、ベルリンフィル大ホールなどの低音の響き具合が楽しめます。

#### 4. まとめ

fidataHFAS1-S10 と Brooklyn DAC+を繋ぐ USB Hub の Brooklyn DAC+側の USB ポートに適用して fidataHFAS1-S10 収納ファイル音源を再生した場合の効果を認めました。

以上